

第四次湖南省地域福祉計画・地域福祉活動計画
策定に向けた市民懇談会

実施報告書

令和３年９月

湖南省

目次

1	実施概要	2
2	課題のまとめ.....	3
3	地区別のまとめ.....	4
	（1）三雲東小学校区	4
	（2）三雲小学校区	5
	（3）石部小学校区	6
	（4）石部南小学校区	7
	（5）岩根小学校区	8
	（6）菩提寺小学校区	9
	（7）菩提寺北小学校区	10
	（8）下田小学校区	11
	（9）水戸小学校区	12
4	意見一覧	13
	（1）甲西中学校区（三雲・三雲東小学校区）	13
	（2）石部中学校区（石部・石部南小学校区）	23
	（3）甲西北中学校区（岩根・菩提寺・菩提寺北小学校区）	31
	（4）日枝中学校区（下田・水戸小学校区）	39

1 実施概要

(1) 実施目的

地域で生活・活動する市民目線での地域の現状や課題、取組のアイデア等の意見をいただき、地域福祉計画および地域福祉活動計画へ生かすことを目的とする。

(2) 実施内容

中学校区	まち協	開催日時	会場	参加人数
甲西 中学校区	三雲まち協	6月23日(水) 午後7時～9時	共同福祉施設(サンライフ) 2階 大ホール	29人
石部 中学校区	石部まち協 石部南まち協		石部まちづくりセンター 2階 中会議室	27人
甲西北 中学校区	岩根まち協 菩提寺まち協	6月25日(金) 午後7時～9時	共同福祉施設(サンライフ) 2階 大ホール	35人
日枝 中学校区	下田まち協 水戸まち協		下田まちづくりセンター 2階 大会議室	34人

(3) 参加者

地域まちづくり協議会役員、区役員、民生委員・児童委員、健康推進員

2 課題のまとめ

各学区で挙げられた意見から、市全体で共通する課題は下記のとおりです。

■地域のつながりの希薄化

近所付き合いや地域のつながりが薄れてきており、隣近所への声かけやあいさつの重要性についての意見が挙げられています。

自治会未加入者の増加がほとんどの学区で挙げられており、若い人や転入者、マンションに住む人の自治会への参加促進が課題となっています。自治会に対する考え方の変化や役員の負担が大きいことが原因として挙げられており、時代に合った自治会活動や自治会未加入者への情報発信、つながりづくりが必要です。

■困っている人の把握が困難、担い手不足

高齢者のみの世帯や一人暮らし世帯の人などの状況把握ができておらず、支援を必要とする人がどこにいるのかわからないという意見が多く挙げられています。引きこもりの人や独居高齢者の孤立を防ぐために、地域で課題共有や情報交換の場を持ち、困っている人を把握することや見守り体制の充実、生活支援の仕組みづくりが必要です。

各学区において、子どもの登下校時の見守りやあいさつ運動、パトロールなどが行われていますが、担い手不足が課題となっている学区も多く、担い手の発掘など人材確保が必要です。

■誰もが参加しやすい交流の場や機会が少ない

ほとんどの学区で、コロナ禍のために地域活動や行事ができていない現状があり、新しい生活様式に基づく活動方法の検討や活動の継続が課題となっています。

またいきいき百歳体操やサロン活動等については、参加者の固定化や男性の参加者が少ないことが課題となっています。世代間交流の場がないことも挙げられており、年齢問わず参加できる行事や集いの場づくりが必要です。

特に外国籍人口割合の高い学区では、外国籍の人との交流や情報交換を必要とする意見が挙げられています。

■高齢者等の買い物や通院時の移動手段がない

高齢化の進行により買い物や通院等の移動手段の確保の必要性が高まっています。行事や集いの場等への参加も含め、地域の実情に応じた移動手段の確保に向けた検討が必要です。

学区によって、支えあい活動による買い物や通院の付き添い送迎支援が行われているところ、日常のちょっとした手伝いをする仕組みができていているところがあり、こうした事例について、全市的に共有していく必要があります。

3 学区別のまとめ

(1) 三雲東小学校区

総人口	5,168 人	世帯数	2,309 世帯
高齢者（65 歳以上）	1,256 人	高齢化率	24.3%
一人暮らし高齢者数	289 人	生産年齢人口割合	61.7%
外国籍人口（率）	208 人（4.0%）	自治会数	2
民生委員・児童委員数	11 人	自治会加入率	49.9%

資料：湖南市 令和3年5月1日現在

※一人暮らし高齢者数：令和3年4月1日現在

※自治会加入率：令和2年9月末現在

主な活動（できたこと）

- ・いきいき百歳体操、グランドゴルフ
- ・サロン、頭の体操講座
- ・ひがしっ子あつまれ
- ・みちくさコンパス
- ・学童保育、子育てサロン
- ・あいさつ運動
- ・防災訓練
- ・スクールガード
- ・運動公園等の清掃作業
- ・独居高齢者の見守り、配食サービス

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・サークル等への男性の参加が少ない
- ・老人クラブの参加者が少ない
- ・若い世代を巻き込めているのかわからない
- ・価値観の多様化や転入者の増加により、地域との関わりが薄くなっているのでは
- ・コロナ禍で活動ができなかった
- ・コロナ後のつながりの再構築が課題
- ・「一緒に」の意識が育っているのかわからない
- ・自治会未加入者への対策
- ・一人世帯や孤独死の増加

必要な取組み（湖南市のミライのためにできること）

地域

- ・通いの場の復活、新たな場をつくる
- ・地域住民全体を巻き込む行事等の企画
- ・区や他団体との協働、若者の声の吸い上げ

自分

- ・あいさつ運動、見守り、いろんな人への声かけ
- ・「一緒に」の声かけで、行事への参加を促す（若者・子どもへ）
- ・研修会や勉強会、イベントに参加し、周囲に情報を伝える

市・社協

- ・支える人の裾野の拡大と育成施策
- ・区への加入ができていない人へのアプローチ
- ・独居高齢者へタブレット等を用いた見守り（異常時の早期発見）

5～10 年後になってほしい地域の姿（湖南市のミライの姿）

子どもたちが生き生きと活動し、安全・安心に暮らせるまち

(2) 三雲小学校区

総人口	10,149 人	世帯数	4,610 世帯
高齢者（65 歳以上）	2,639 人	高齢化率	26.0%
一人暮らし高齢者数	550 人	生産年齢人口割合	61.5%
外国籍人口（率）	566 人（5.6%）	自治会数	7
民生委員・児童委員数	22 人	自治会加入率	57.5%

資料：湖南市 令和3年5月1日現在

※一人暮らし高齢者数：令和3年4月1日現在

※自治会加入率：令和2年9月末現在

主な活動（できたこと）

- ・いきいき百歳体操
- ・ゆうゆう体操、頭の体操
- ・グランドゴルフ、ボーリング大会
- ・みちくさコンパス
- ・盆踊り、区の運動会
- ・歴史遺産の保存会、ひな人形めぐり
- ・80 歳以上対象のサロン
- ・子ども食堂、夏休み学習支援
- ・放課後こどもの学習スペース
- ・防災訓練、防災支援マップの更新
- ・交通安全立番
- ・草刈りボランティア、公園整備

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・近所付き合いや地域の絆が薄れてきている
- ・マンションではなかなか交流する機会を持ってない
- ・コロナ禍で地域の活動ができていない
- ・サークル活動の男性参加が少ない
- ・高齢者（特に男性）のおしゃべりできるグループがない
- ・乳幼児の保護者の居場所が必要
- ・どこに困っている人がいるのか見えずらい
- ・子どもの貧困支援ができていない
- ・今行っていることを若い世代へつなげたい
- ・ＩＴ格差で高齢者等取り残される人が多数おり、地域で助け合えるシステムが必要

必要な取組み（湖南市のミライのためにできること）

地域

- ・自治会への加入促進、若い世代が地域活動へ参加しやすい環境づくり
- ・敬老会や子ども会を含め、住民同士の交流促進
- ・ゴミのポイ捨て防止啓発、自分たちのまちを自分たちできれいにする

自分

- ・ささいな困りごとをまず聞くことから始める
- ・集いの場やイベントに参加し、積極的に交流する
- ・高齢者、身体の不自由な方、子どもへの声かけ

市・社協

- ・支えあい活動推進のための支援、地域支えあい推進員との連携
- ・社協の活動や他市町村の取組事例等、情報の提供
- ・独居高齢者の名簿作成と日常のフォローの仕組みづくり（孤独死対策）

5～10 年後になってほしい地域の姿（湖南市のミライの姿）

若い世代が増え、地域の活動や場所がたくさん活気あるまち

(3) 石部小学校区

総人口	6,573 人	世帯数	2,866 世帯
高齢者（65 歳以上）	1,567 人	高齢化率	23.8%
一人暮らし高齢者数	339 人	生産年齢人口割合	62.4%
外国籍人口（率）	347 人（5.3%）	自治会数	4
民生委員・児童委員数	15 人	自治会加入率	38.4%

資料：湖南市 令和 3 年 5 月 1 日現在

※一人暮らし高齢者数：令和 3 年 4 月 1 日現在

※自治会加入率：令和 2 年 9 月末現在

主な活動（できたこと）

- ・地域支えあい推進活動
- ・豆講（一部の地域で）
- ・コミュニティカフェの立ち上げ
- ・ふれあいまつり、ぶらり街歩き
- ・いきいき百歳体操、まち中ウォーキング
- ・独居高齢者の集い
- ・サロン、茶話会
- ・高齢者等の生活相談
- ・子どもの通学時の見守り
- ・子ども食堂、学習支援、体験学習
- ・民生委員と区役員による協議会
- ・夜間パトロール
- ・地域清掃活動、啓発活動

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・コミュニティカフェの認知度が低い
- ・コロナ禍で地域でのコミュニケーションができなかった
- ・若い世代と連携した取組が必要（地域おこし協力隊等）
- ・世代を問わず交流できる場がない
- ・自治会未加入者が増えており、接点がなく、情報がどれくらい届いているのかわからない
- ・時代に合った自治会活動が必要
- ・一人ひとりの自発的な参加意識が必要
- ・災害等緊急時の体制がわからない
- ・独居高齢者等の把握、日常的な声かけ
- ・一人暮らし世帯が増えた

必要な取組み（湖南市のミライのためにできること）

地域

- ・向こう三軒両隣の強化、地域で困っている人の把握
- ・子ども・高齢者の居場所づくり（空き家を活用したサロン等）
- ・自治会未加入者への情報発信、つながりづくり

自分

- ・若い世代との価値観の共有
- ・コミュニティカフェの活用で不登校生徒の居場所づくり
- ・自分の知識、経験を活かしたボランティア

市・社協

- ・自治会加入の義務化、公共施設の利用ルールの緩和
- ・先進事例、問題解決のためのアイデア提供
- ・高齢者の事務手続きがスムーズにできる体制づくり

5～10 年後になってほしい地域の姿（湖南市のミライの姿）

世代を超えて交流し、みんなが挑戦・活躍できるまち

(4) 石部南小学校区

総人口	5,236 人	世帯数	2,392 世帯
高齢者（65 歳以上）	1,564 人	高齢化率	29.8%
一人暮らし高齢者数	372 人	生産年齢人口割合	58.7%
外国籍人口（率）	277 人（5.3%）	自治会数	5
民生委員・児童委員数	13 人	自治会加入率	62.0%

資料：湖南省 令和3年5月1日現在

※一人暮らし高齢者数：令和3年4月1日現在

※自治会加入率：令和2年9月末現在

主な活動（できたこと）

- ・地域支えあい推進員の選任
- ・ドッチボール大会
- ・自治会でサロン集会、敬老会
- ・子ども食堂（毎月）
- ・こあらっこ、ベビーマッサージ等
- ・通学の見守り
- ・防災訓練
- ・災害時要支援者の把握
- ・見守りリストの作成
- ・デマンドタクシーの実証実験
- ・クリーンキャンペーン

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・地域の絆が薄れてきている
- ・気軽に参加できる集い、レクリエーション等ができていない
- ・集合住宅等の自治会加入促進が必要
- ・自治会に対する考え方が変化しており、若い転入者の方たちは個人主義が多い
- ・支援が必要な方を見つけられない、気づけない
- ・一人暮らしの人等への生活支援の仕組みづくりが必要
- ・独身高齢者増、孤立を防ぐため、サロン等へ誘うことが大切
- ・外国籍の人との情報交換が必要

必要な取組み（湖南省のミライのためにできること）

地域

- ・ゴミ出し、買い物等の生活支援の体制づくり、各家庭の状況把握
- ・自治会の必要性を区民に理解してもらう
- ・様々な世代が自由に集まれる場所づくり

自分

- ・気になる人の話し相手、相談相手になり、困りごとは行政等につなぐ
- ・地域内での交流が活発になるよう、行事等に参加する
- ・自治会活動の活性化

市・社協

- ・まち協、自治会やボランティアへの補助金等の支援
- ・認知症や障がい者等、困っている人に寄り添えるような情報提供
- ・デマンドタクシーや販売車等、高齢者等への援助

5～10 年後になっていてほしい地域の姿（湖南省のミライの姿）

支えあい・助け合いの仕組みの中で安心・安全に暮らせるまち

(5) 岩根小学校区

総人口	4,400 人	世帯数	2,055 世帯
高齢者（65 歳以上）	1,023 人	高齢化率	23.2%
一人暮らし高齢者数	231 人	生産年齢人口割合	65.2%
外国籍人口（率）	516 人（11.7%）	自治会数	6
民生委員・児童委員数	11 人	自治会加入率	41.1%

資料：湖南省 令和 3 年 5 月 1 日現在

※一人暮らし高齢者数：令和 3 年 4 月 1 日現在

※自治会加入率：令和 2 年 9 月末現在

主な活動（できたこと）

- ・球技大会、グランドゴルフ大会
- ・区民ハイキング
- ・盆踊り
- ・いきいき百歳体操、健康料理教室
- ・ふれあいサロン、老人会
- ・通学時の見守り
- ・交通見守り隊
- ・住民の安全安心カード作成
- ・河川愛護
- ・ゴミステーションの見守り、清掃活動
- ・アンケート

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・コロナ禍で事業実施ができず、コミュニケーションの継続が必要
- ・年代を超えて集える場づくりができなかった
- ・通院患者の個別送迎が必要
- ・買い物が不便な人への支援を計画しているが実行できていない
- ・顔見知り同士でもプライベートなことに立ち入るのは難しい
- ・学区単位では、地域ごとに状況が異なるので対応が難しい
- ・災害資料やロードマップの作成が必要
- ・コロナ禍等、行動が制限される中でのコミュニケーション、地域活動の方法

必要な取組み（湖南省のミライのためにできること）

地域

- ・コロナ禍等で実施できていない体操や集いの場の実施に取り組む
- ・年齢問わずみんなが参加できる行事や機会づくり
- ・子ども、高齢者世帯、独居高齢者等への見守り

自分

- ・隣近所の方々との支えあい活動
- ・身近な暮らしの中で、高齢者等への声かけをする
- ・ボランティア活動に参加する

市・社協

- ・ボランティアポイント制によるコミュニティ、外出機会の提供
- ・不要になる食料品を回収して子ども食堂等へまわせる仕組みづくり
- ・買い物や病院への送迎等、弱者目線での支援

5～10 年後になってほしい地域の姿（湖南省のミライの姿）

子どもたちの元気がすべての世代につながるまち

(6) 菩提寺小学校区

総人口	6,867 人	世帯数	2,790 世帯
高齢者（65 歳以上）	2,031 人	高齢化率	29.5%
一人暮らし高齢者数	338 人	生産年齢人口割合	57.1%
外国籍人口（率）	85 人（1.2%）	自治会数	4
民生委員・児童委員数	13 人	自治会加入率	81.2%

資料：湖南市 令和3年5月1日現在

※一人暮らし高齢者数：令和3年4月1日現在

※自治会加入率：令和2年9月末現在

主な活動（できたこと）

- ・地域支えあい推進員活動
- ・サロン、カフェの開設
- ・いきいき百歳体操
- ・住民参加による勉強会
- ・高齢者・独居老人の訪問、声かけ
- ・認知症啓発の継続、介護予防の意識啓発（フレイル予防講座）
- ・子ども食堂の定期開催、勉強場所
- ・子育て中の親が集える場づくり
- ・子ども見守り隊
- ・防災連絡会設立
- ・自治会連携による防災訓練

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・個人情報保護のため、独居高齢者等の把握ができず、見守りができない
- ・独居高齢者の見守り等、孤立を防ぐ方法の検討
- ・住民の集える場所の定着、継続に向けた人材確保や引継ぎ方法の検討
- ・区役員等、リーダーの担い手がいらない
- ・コロナ禍で事業や活動が実施できていない
- ・引きこもり家庭へのアウトリーチが必要
- ・高齢者がイベント等に出かけやすいよう、移動手段の仕組みが必要

必要な取組み（湖南市のミライのためにできること）

地域

- ・小さな自治会単位での見守り意識の広がり、体制の構築、つながりづくり
- ・地域の見守り体制構築、体制の充実
- ・地域で買い物、病院、集いの場等不自由なく行けるような移動手段の確保

自分

- ・地域住民への声かけ、ちょっとしたおせっかい
- ・地域の交流の場を提供し、隣近所の付き合いを密にする
- ・高齢者、子ども、独居の方との話し相手

市・社協

- ・住民同士の支えあい促進や高齢者の外出促進に向けた意識啓発
- ・少子高齢化施策、福祉の充実
- ・コミュニティバスの充実

5～10 年後になっていてほしい地域の姿（湖南市のミライの姿）

身近な地域で生活できる環境が整った暮らしやすいまち

(7) 菩提寺北小学校区

総人口	4,676 人	世帯数	1,905 世帯
高齢者（65 歳以上）	1,084 人	高齢化率	23.1%
一人暮らし高齢者数	247 人	生産年齢人口割合	62.2%
外国籍人口（率）	51 人（1.1%）	自治会数	3
民生委員・児童委員数	8 人	自治会加入率	81.6%

資料：湖南省 令和 3 年 5 月 1 日現在

※一人暮らし高齢者数：令和 3 年 4 月 1 日現在

※自治会加入率：令和 2 年 9 月末現在

主な活動（できたこと）

- ・安心応援ハウス「えんがわ」
- ・高齢者サロン
- ・高齢者・独居老人の見守り
- ・バンブーハウス
- ・カブトムシの育成
- ・仲間でテニス
- ・世帯台帳の作成
- ・災害時の援護体制
- ・防災訓練

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・見守り体制の確立が必要
- ・サロン参加者の開拓が必要
- ・消防団員の増員
- ・災害時の援護訓練ができていない
- ・自治会を退会する人の増加、役員の負担が大きいことが課題
- ・自治会に任せすぎではないか

必要な取組み（湖南省のミライのためにできること）

地域

- ・高齢者同士の日常的な交流、互いの見守り活動
- ・高齢者への支援、子どもの育成
- ・防災チームの補強

自分

- ・交流の呼びかけをする

市・社協

- ・地区では解決できない課題への対応（自治会館のバリアフリー化や駐車場の確保等）
- ・若い人が市内に移り住みたくするような取組みや子どもが増える取組みについて考えてほしい
- ・安心応援ハウスが自由に使用できるよう費用負担による支援

5～10 年後になっていてほしい地域の姿（湖南省のミライの姿）

若者人口と行事に参加する若者が増えるような、暮らし良いまち

(8) 下田小学校区

総人口	6,219 人	世帯数	2,789 世帯
高齢者（65 歳以上）	1,533 人	高齢化率	24.6%
一人暮らし高齢者数	331 人	生産年齢人口割合	61.2%
外国籍人口（率）	261 人（4.2%）	自治会数	9
民生委員・児童委員数	16 人	自治会加入率	62.8%

資料：湖南省 令和3年5月1日現在

※一人暮らし高齢者数：令和3年4月1日現在

※自治会加入率：令和2年9月末現在

主な活動（できたこと）

- ・ちょこっと手伝い（草刈り等）
- ・ちょこっとカフェ
- ・地域見守り隊
- ・体育まつり、お月見コンサート
- ・泥りんピック、お田植え祭り
- ・「地域支えあい通信」の発行
- ・いきいき百歳体操、ラジオ体操
- ・認知症予防、認知症講座
- ・高齢者、独居老人の見守り訪問
- ・子育てサロン
- ・防災訓練、防災講習会
- ・スクールガード、防犯灯の設置
- ・草刈り、河川清掃

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・コロナ禍で見守り訪問の頻度が減少
- ・生活の困りごとへの個別対応ができていない
- ・お助けマン的なマンパワーの発掘ができていない
- ・コロナ禍で地域行事等ができていない
- ・コロナ禍における新しい組織体制や活動方法の検討が課題
- ・スクールガードの人手不足
- ・子どもはあいさつをしてくれるが、あいさつのできない大人が増えている
- ・高齢者が地域や仲間とつながれる機会の増加
- ・高齢者夫婦や独居高齢者が増加し、見守りや買い物の支援等が必要
- ・運転ができなくなると生活に困窮する

必要な取組み（湖南省のミライのためにできること）

地域

- ・困っている人の現状を知る、高齢者の困りごとを聞く、「お助けマン」の発掘
- ・自治会の担い手不足解消、世代間交流の機会の増加
- ・高齢者への支援（庭の剪定、草取り、ごみ出し等）や移動手段の確保

自分

- ・隣近所との会話を大切にし、元気よくあいさつを交わす
- ・趣味を通じた仲間づくり、健康づくり
- ・草刈りや剪定等のお手伝い、独居者への声かけ

市・社協

- ・情報の共有化（プライバシー保護の緩和）、助け合いの雰囲気づくり
- ・一部有料化等、負担にならないボランティア活動の推進
- ・買い物、通院等の交通手段の展開と拡充

5～10 年後になっていてほしい地域の姿（湖南省のミライの姿）

子どもからお年寄りまで生き生きと活躍できるまち

(9) 水戸小学校区

総人口	5,495 人	世帯数	2,595 世帯
高齢者（65 歳以上）	909 人	高齢化率	16.5%
一人暮らし高齢者数	182 人	生産年齢人口割合	69.4%
外国籍人口（率）	983 人（17.9%）	自治会数	3
民生委員・児童委員数	11 人	自治会加入率	75.5%

資料：湖南省 令和3年5月1日現在

※一人暮らし高齢者数：令和3年4月1日現在

※自治会加入率：令和2年9月末現在

主な活動（できたこと）

- ・支えあい活動による付き添い送迎支援（買い物、通院等）
- ・要支援者への声かけ
- ・男の料理教室
- ・十二坊ハイキング
- ・集いカフェ
- ・いきいき百歳体操
- ・高齢者のつどい、ふれあいサロン
- ・子ども広場
- ・子どもの見守り隊、あいさつ運動
- ・防災チーム
- ・公園の草刈り、ごみ拾い等美化活動
- ・公園のイルミネーション

地域の課題（できなかったこと、新たな課題）

- ・コロナ禍で活動できていない団体が多い
- ・活動に参加する人の固定化
- ・支援の必要な人の情報がつかみにくい
- ・課題や支援の必要な人の情報共有が必要
- ・引きこもりへの対応（相談等）、声かけはハードルが高い
- ・独居高齢者が外に出てくるようにする
- ・高齢の参加者が増加し、送迎が必要となってくる
- ・認知症予防、認知症の方の見守り、声かけ
- ・新しい住民の自治会等への協力
- ・外国籍住民への声かけ、交流
- ・外国籍の子どもたちへの教育、接し方

必要な取組み（湖南省のミライのためにできること）

地域

- ・現在高齢化率は低いですが、上昇したときのために隣近所の関係づくりが必要
- ・支える側、次世代の担い手の発掘、育成
- ・世代を超えて、行事や自治会等の地域活動を活発にしてい

自分

- ・近所への声かけや支援、見守り、地域の情報収集
- ・周りの人も誘い、活動に積極的に参加する、人の輪を広げる
- ・独居高齢者への見守り、支援

市・社協

- ・生活困難者への対応の報告、方向性の共有
- ・社協でのボランティアの育成後、地域で活動してもらえるようにする
- ・複数の課題を抱える家庭に対しての専門的な支援

5～10 年後になってほしい地域の姿（湖南省のミライの姿）

みんなが笑顔で活躍し、自慢できるふるさと水戸

4 意見一覧

(1) 甲西中学校区 (三雲・三雲東小学校区)

■三雲東小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり	・あいさつ運動	・価値観の多様化 ・個と集団の関わり方の変化 ・高齢者世帯だけでなく、別居親族と地域との関わりは ・生活圏が地域内だけではない住民 ・地域で生まれ、育ち、生活し老いていく人の減少は、地域との関わりを薄めているのでは
交流	・みちくさコンパス ・人権のまつり ・むつみあいの会 ・サークルの立ち上げ	・コロナのため、多人数の集合ができなかった ・コロナで活動できなかった ・男性のサークルができなかった ・サークルに男性の参加が少ない ・男性の参加が少ない ・若い世帯を巻き込めているのか ・みちくさコンパス ・むつみあいの会
健康づくり	・百歳体操 ・頭の体操講座を立ち上げ 24 名の参加（男子5名）最終 13 名のサークル員 ・百歳体操 ・グランドゴルフ ・ラジオ体操（有線）	・ボイストレーニング ・スポーツ大会
高齢者	・敬老会 ・独居高齢者訪問 ・独居高齢者見守り支援 ・独居高齢者の配食サービス ・配食サービス ・生活支援サポーターはできたか ・サロンはできている ・サロン日雲 ・ふじふさサロン	・サロン日雲 ・老人クラブ参加者が少ない ・誰がサロンをするのか。コロナで具体的な動きができていない
子ども・子育て	・ひがしっ子あつまれ ・学童保育 ・子育てサロン ・ホリデースクール ・おばけ大会	・おばけ大会
防災・防犯	・命のバトン ・スクールガード ・防災訓練	・災害訓練
生活環境	・カープミラー ・地区の清掃作業（運動公園等） ・地域の清掃（年2回）	・移動支援

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題
支えあい・つながり	・地域住民の共同体意識は持たれているか？ ・「一緒に」の意識は育っているのか？ ・“あたりまえ”が通用する社会ではなくなっているのでは？ ・仕組みづくりを考えられないか ・コロナ後のつながりの再構築 ・プライバシーの壁 ・個人情報を守られる一方で、うわさ（真実かどうかわからない）等は興味本位で広まる可能性があると感じた ・人との関わりは大事だが、一人が好きという人もたくさんおり、そういう人は自分で趣味や自分の課題を決めて黙々と取り組んでいる人が多いので、それなりに楽しんでいるのではないかなと思う。そういう人は、また声かけすれば、積極的に出てくれる人が多いと感じている
交流	・行事やサロン、通いの場が減ったことで、身体的にも精神的にも弱ってしまうことが増えた（人との関わりが大切なことを再確認することとなった）。人と直接出会うこと、話すこと、場の雰囲気とともに感じるのが楽しみ・喜びになる
地域活動	・男性が参加しやすい講座は何か、参加しやすいものは何かを見つけたい ・コロナを恐れるあまり取りやめになることが多かったが、感染対策をしながら実施できることを探したり、規模を小さくしてできることも見つけられた。 ・自治会未加入者の対策を考えてほしい
高齢者	・老人会でも年々減少、新たな参加者は勤務中であり、70 歳以上の参加は得られなかった ・老人会の参加率が低い
孤立・孤独	・一人世帯が多くなった（特に女性） ・孤独死が3日間程わからなかった ・孤独死、新聞配達から通報

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・近所付き合い（あいさつ、おすそ分け） ・人々が明るく楽しく生活していくために人とのつながりやふれあいがとても大切だと思う ・コロナの中でどう工夫すれば人とのつながりやふれあい活動ができるか工夫すること、考えること ・できることの一步を踏み出すこと ・支える側の育成（10 年先を見据えた）
	自分自身	・家族の助け合い ・コミュニケーション ・あいさつ→日常会話の実践 ・あいさつ運動 ・いろんな人に声かけする ・見守り、声かけ ・人との関わりを増やす（出会いを大切に、言葉を一言でも多く交わす） ・どんなことでもまず聞く
	市・社協	・支える人の裾野の拡大と育成施策
交流	地域	・通いの場を復活させる。新たな場所をつくる ・地域住民全体を巻き込む行事等の企画。特に近隣住民との交流事業の実施
	自分自身	・行事への参加を促す（誘い）（「一緒に」の声かけ）高齢者だけで

		- なく、若者・子どもへの声かけ、誘いが大切 ・サークルの参加率を高め、男性の参加しやすい場所の提案 ・サロンの立ち上げ
地域活動	地域	・行事消化に陥らない、持続可能な事業計画の立案 ・今できることと問題点の洗い出し ・さまざまな立場の人が協力し合って、地域を活性化させるために手をつなぐこと
	自分自身	・地域の区長を代表者としてサポートする ・研修会や勉強会、イベントに参加すること（情報交換は宝！）周囲に自分が得た情報を伝える ・楽しい企画、工夫して興味が持てる企画をすること
	市・社協	・区への加入ができていない人へのアプローチ
連携・協働	地域	・伝達方法の確認 ・区や他団体との協働
	市・社協	・いろいろな委員会の横のつながりが必要 ・地域住民と市や社協は一体になっているか ・市は各ボランティアに頼りすぎで限界を超えている ・区、まち協に事業を押し付けすぎ ・柔軟な対応、どんなことでも臨機応変に対応してほしい ・福祉のIT化、デジタル化→福祉関係者の情報の共有（立場により制限はあるが） ・実態をふまえた対策
健康づくり	自分自身	・健康づくり（ラジオ体操毎朝、雨天中止）
若い世代	地域	・若い人が地区から出ていかないように考える ・若者の声の吸い上げ
孤立・孤独	地域	・孤立や孤独はいけないことではないと思うが、多くの方が人とのつながりやふれあいを求めていると思う ・孤独な人、孤立する人をできるだけつくらないように、みんなで取り組む
	市・社協	・独居高齢者へタブレット等を用いた見守り（異常時の早期発見）
支援の必要な人	地域	・支えあい事業での高齢者を助ける活動 ・柑子袋公民館で乳幼児のいる保護者などの相談を保健師が聞いてはどうか
	市・社協	・介護保険料等の負担軽減 ・個人情報保護のために情報が伝わらない→独居高齢者の名簿作成等仕組みづくり ・地域支えあい推進制度、公助→プログラムの的に中身を濃くしてほしい
防災・防犯	地域	・防犯カメラを設置してほしい ・災害活動において、避難訓練の実施
生活環境	自分自身	・草刈り／草引き

④湖南市のミライの姿

意見
・子どもが安心できるまちづくり ・子どもが安心できる市にしてください（犯罪／車の運転マナー／他） ・独居高齢者が心配 ・安全、安心して暮らしていきたい ・子どもたちが生き生きと活動している地域 ・健康で、安全安心な生活

⑤自分が元気であるためにこころがけること

意見
・いつも明るくにこやかに ・くよくよせずに前向きに生きる努力する ・健康寿命を延ばすこと ・自身でできることは自分でする ・挑戦し続けること ・簡単な運動（持続できるような体操やウォーキングなど）やできるだけ規則正しい生活。バランスのよい食事。みんなと仲良く ・自己管理 ・健康寿命を延ばすこと ・仕事、趣味等の目的を持って生きる ・早寝、早起き、ラジオ講座、草刈り

■三雲小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり		・コロナのため、多くの人との接触等はできなかった ・近所付き合いや地域の絆が薄れてきている ・家から外（社会とのつながり）に出て、いろいろな方々とつながりを持っていただきたい。そのような事業を開催したい
交流	・みちくさコンパス ・区の運動会 ・ボーリング大会 ・ゴルフ大会 ・グランドゴルフ（2回／月） ・盆踊り ・三雲人権まつり ・将棋、麻雀 ・歴史遺産の保存会 ・ひな人形めぐり ・喫茶 ・むつみあいの会 ・新春ウォーク ・健康マージャン	・コロナ禍で地域の活動ができていない ・コロナで昨年は中止が多かった ・コロナによりサロンやサークル活動が止まった ・コロナによりみちくさコンパスやまち協での地域住民の方々との交流イベント等が中止になった ・住民の集い ・住民の交流 ・地域の居場所（引きこもり対策） ・男性の参加が少ない ・サークル活動の男性参加が少ない ・新しい活動団体ができなかった ・R2年度 夏祭り（今年度も中止） ・R2年度 独身高齢者の集い ・R2・R3年度 ゴルフ大会 ・R2・R3年度 子ども神輿の巡行
地域活動	・自治会行事 ・サークルの立ち上げ（三雲まちセン）	・研修会や講演会などに出向いての情報収集ができなかった
健康づくり	・ラジオ体操 夏休み ・スマイルエクササイズ（1回／年） ・百歳体操、ゴムバンド体操 ・ゆうゆう体操 ・健康であるための運動教室開催（保健センターの協力、文化体育振興事業団と共催にて開催） ・いきいき百歳体操 ・体操クラブに参加すること ・サークルの立ち上げ「頭の体操」	・健康料理教室 ・（コロナ禍で）どこに困っている人がいるのか見えづらい
高齢者	・敬老会（1回／年） ・80 歳以上対象のゆうたにサロン（4回／年） ・サロン日雲 ・吉永サロン ・ほほえみサロン（独居老人）（1回／年） ・老人クラブ延命会 ・独身高齢者の集い ・通いの場の育成支援（フレイル対策） ・喫茶「ひだまり」（2回／毎週） ・すこやかサロン（2回／年）	・高齢者の方の個別支援 ・R2年度 敬老会 ・お年寄りが集まって楽しく話ができる場づくりとして、三雲まちづくりセンター、柑子袋まちづくりセンターでサロンづくりをしたい ・すこやかサロン 令和3年より（1回／年）（市からの交付金削除のため年1回に変更）

子ども・子育て	・夏休み学習支援 ・子ども食堂支援 ・新一年生通学体験 ・歴史探訪（小学生対象） ・3密を避けるなどコロナ対策をとり、子どもの学習会を開催 ・R2年放課後スペース「ぴっころ」（子どもの学習スペース） ・子ども映画のタベ ・おばけ大会	・子どもの貧困支援（ほっこりや支援）
防災・防犯	・命のバトン配布 ・防災訓練 ・防災推進員 ・非常食の配布 ・一次避難集合訓練／安否確認 ・初期消火訓練 ・防災支援マップの更新（登録一覧表） ・災害時要支援体制 ・カーブミラーの設置 ・スクールガード 1回／週 ・交通安全立番 ・交通立番（1日・15日）の実施	・具体的な防災訓練 ・防災訓練
生活環境	・里山の手入れ ・まち協としてプランターの植替え作業 ・河川愛護運動（草刈り） ・草刈りボランティア、花の会、桜公園整備 ・デマンド交通に関するアンケート調査	・デマンド交通

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題
支えあい・つながり	・人との関わりはとても大切だということを身にしみて感じた ・孤独死が最近数年に1度程度発生している ・個人情報保護法により簡単に入れない部分もある ・地域で孤立している人（困っている人）の情報がわからない→支援のしようがない ・地域支えあい
交流	・マンションであるので、なかなか交流をする機会を持てない ・住民が交流を嫌がる今日、いろいろな事が難しい ・コロナ禍のため各個人との交流の機会がほとんど持てていない
地域活動	・昔と異なり自治会への関わり方も変化してしまっている ・最近、区や老人クラブの会長や役員を担っていただける人がいない（少ない） ・今、行っていることを若い世代につなげたい。つなげていかないと、今までのように途切れ途切れになってしまう ・地域で行われているいろいろな活動の把握ができていない ・コロナのために活動が停止していたが、今年度は対策をし、活動されているところもある ・コロナ禍の中でもできる事業化ができなかった ・地域福祉活動計画の推進
高齢者	・高齢者（特に男性）のおしゃべりできるグループがない ・IT格差→コロナ禍で集まらないデジタル化が進んでいるが、高齢者等など取り残される人が多数いる。地域で助け合えるシステムがあれば良い ・老人会への参加率が低い、会員数の減少

	・市の 100 歳大学卒業生が有志で野菜栽培、楽器演奏等のグループ活動を定期的に行っている ・敬老会について、該当者が増加のため、区単独での開催が難しい（柑子袋まちづくりセンターの収容人数は 120 名以上になると 1 回の開催ではできない） ・該当者（予想）[令和 2 年度：400 名、令和 3 年度：430 名、令和 4 年度：500 名、令和 5 年度：580 名、令和 6 年度：630 名]
子ども・子育て	・保育園、幼稚園に行っていない乳幼児を育てている保護者の居場所（話し合いの場所・交流の場）があれば
防災・防犯	・三雲小学校前や交通危険場所に、子どもの安全等のため防犯カメラ設置必要（警察への申請中→ダメなら企業より寄付） ・洪水対策→野洲川堤防、トンネルの樋門設置、堤防拡幅、護岸 ・防災放送が聞こえづらい。防災ラジオがあれば安心
生活環境	・デマンド交通を早く実施して欲しい

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・人と人のつながりを持ち近所付き合いを活発にする ・住民同士の把握 ・区ごとではなく小さな集団（町ごと等）で小さな課題から取り組み、地域の方々が我が事として捉えていけるような仕組みをつくる ・地域のつながりを進めていくこと ・近所付き合い、あいさつ ・地域のつながり（となり、近所付き合い） ・あいさつ、声かけ、交流、防災 ・声かけ、あいさつ、向こう 3 軒両隣 ・相談にのってあげる ・細かな事柄にも耳を傾ける
	自分自身	・隣近所への声かけ ・声かけ、あいさつ ・目的を持って生活することが大切 ・早い対応 ・ささいな困りごとをまず聞くことから始める ・あと何年生きられるかわからないが自分のことができる間は他人にもしてあげたい
	市・社協	・支えあい活動の表彰（個人や地域の取組を知る機会） ・公助として地域支えあい推進員制度の活用 ・地域支えあい推進員との連携 ・支えあい活動推進のための支援
交流	地域	・住民同士の交流、敬老会や子ども会も含む ・通いの場、居場所づくり ・敬老会、独身高齢者の集い、すこやかサロン、喫茶「ひだまり」等区での奉仕活動の事業を進めていきたい。また、グランドゴルフ等スポーツを通じた活動も積極的に計画していきたい
	自分自身	・自分自身も通いの場へ行く ・住民の集いなどのイベントへ参加し、積極的に交流に参加する
地域活動	地域	・自治会への加入促進 ・若い世代が地域活動に参加しやすい環境をつくる ・若者が活躍できる場の提供 ・各種団体に参加する人としらない人に分かれなくしていく ・小さな自治会館等での健康相談や運動の実施、個々に合った相談（健康のため）
	自分自身	・地域の組織に参画し全体を把握していく

		・元気なうちはいろいろなことに積極的に参加 ・地域福祉のボランティア参加 ・地域活動への参加 ・行事計画書作成 ・地域での活動に積極的に参加したい。また、近所付き合いを大切にしたい（あいさつ運動などの声かけ）
	市・社協	・自治会への参加促進 ・地域福祉活動に必要な資金 ・区に加入していない世帯に対しての対応（加入促進） ・民生委員や健康推進員の活動が、区長として（区としても）認識しやすい ・地域活動の支援と参加をしていただきたい
連携・協働	地域	・互いの情報交換
	市や社協	・相談役であってほしい ・地域と市が協力して県、国に働きかける ・地域に出向いて住民に地域福祉の重要性をアピール ・市民への情報の提供、社協は何をやっているのかよく知らない ・他の市町村で取り組んでいる事例などの情報 ・メリットをPRしていただきたい
健康づくり	自分自身	・ストレスをためないように楽しみを見つける ・健康診断を積極的に受診する ・健康づくり、ラジオ体操やウォーキング、花づくり（地域の景観、いやし）
孤立・孤独	地域	・孤独死などを防ぐ仕組みづくりが必要
	市・社協	・孤独死などを防ぐ仕組みづくり ・孤立されてる方がサロンへ行くのは初動が厳しいと思われる
支援の必要な人	地域	・高齢者の行事に取り組む ・特に子育て世代、高齢者等 ・一人暮らしの高齢者の把握と配食サービスや病院、買物のアシストができれば ・乳幼児を育てている保護者が交流できる場所を
	自分自身	・高齢者、身体の不自由な方（要支援者等）への声かけ、相談事への親切対応（民生・児童委員も巻き込んで） ・地域の子どもたちへの声かけ
	市・社協	・高齢の方が引きこもってしまわないよう、何か働ける機会を ・高齢者の独居者の名簿作成と日常のフォローの仕組みづくり（孤独死対策）
防災・防犯	地域	・野洲川洪水ハード対策（住民の命と財産を守る）
	自分自身	・野洲川ハード対策の必要性の啓発活動をする
	市・社協	・ゴミのポイ捨て、不法投棄の厳罰化、パトロール、防犯カメラ ・安心・安全の仕組みづくり
生活環境	地域	・ゴミ拾いは年数回あるが、歩道の草刈りをやったらいいと思う ・自分たちのまちは自分たちできれいにしたい ・ゴミのポイ捨て防止啓発
	自分自身	・市道のゴミ拾い（1回／週） ・朝夕の散歩でゴミ拾い
	市・社協	・来年夏に平和堂甲西中央店が閉店となる。買い物難民にならないために、スーパーを誘致してほしい ・毎回同じゴミが捨てられている事例もあり ・ゴミのポイ捨てを解消して欲しい→カメラの設置など ・住みやすいまちづくりを行い、新婚さんが湖南市へ来るようアピール

④ 湖南省のミライの姿

意見
・ 仕組みとしての体制づくりが大切（善意に頼ってはだめ） ・ 災害に強い地域 ・ 若い世代の転入で活気あるまちになってほしい ・ 配食サービスの充実 ・ 防災ラジオの各戸配布 ・ 民生委員の人員増 ・ 新しく市に来られた方々も、長い間住まれている方々も、境のないまちづくり ・ 外国の方とも親しく話ができて、共通の話題を語り合えるように ・ 整備された山林で、放置された土地・建物がない地域 ・ 今の湖南省は、活気がないように思われる。若者がたくさんいる活気のあるまちになってほしい。リモートワークが盛んになると思うので、会社を誘致して十二坊温泉など利用してもらう ・ 高齢者同士の交流を深める、機会を増やす、交流の場 ・ 市民のみんなが、支え手側、支えられる側が相互に作用して、心が元気であるまちになってほしい ・ 健康で安全・安心な暮らし ・ 一人でも多く健康寿命を伸ばしていけるような活気がほしい ・ 健康で安全・安心な日常 ・ まちづくりに若い世代の力を借りて明るい学区になるよう期待したい ・ 各区の事業のいいところを話して取り組みたい ・ 若者の増加 ・ マイナスのこと（婚活参加が少ない、空家が多い、一人暮らしが多くなる）に対し、プラスのことが少なく推移している ・ 市民がいろいろなことに参加できるシステムをつくって提供する ・ 楽しく過ごせるまち ・ 安心・安全 明るいまちづくり ・ 世代に関係なく、住民同士が助け合える地域 ・ 安心・安全な暮らしができる ・ 地域の活動や場所がたくさんあってほしい

⑤ 自分が元気であるためにこころがけること

意見
・ 仕事や趣味等の目的を持つ、身体的には運動の継続 ・ ボランティア活動、もうけにもならないことに率先して取り組む ・ 常に前向きな気持ちを持ち、健康維持すること ・ 働く ・ 人と交流する ・ いつまでも自分のことは自分であることを目標に日々運動、食事など好きなことをしてストレスをためないようにする ・ 朝晩たとえ 10 分間ずつでもストレッチ等の運動をする ・ 極力歩くように心がけ、実践する ・ ストレスをためない、くよくよしない、人と比べない、自分を肯定する ・ 早寝、早起、適度な運動、ラジオ講座、ラジオ体操、畑仕事、草刈り ・ 助けてと気兼ねなく言えるように、自分ができるときは支え手にもなる。視野を広く、心配りができることが元気である秘訣かな？ ・ 健康のために体を動かすこと ・ ストレスをためすぎない ・ まずは自分の近所の方々との交流を深める。あいさつや地域活動へ参加することで助け合いにつなげていく ・ 自己管理

- 自分の健康は自分で守る
- 普段の節制が大切であると思う
- 好きなことを続ける→仲間、家族に感謝
- 病気に打ち勝つ体力づくり、認知症にならない
- 健康に努める、運動を行う、いろいろなサークルに参加して活動する、できる限り仕事をする、人と積極的に接触し交流する
- 毎日の運動（1万歩以上／日のウォーキングを続けている）
- 自己管理、自分でできることに挑戦し続ける
- 自分ができることは自分でやる
- ウォーキング
- あいさつ運動（声かけ）

(2) 石部中学校区 (石部・石部南小学校区)

■石部小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり	・旧来のまちなので向こう三軒両隣のつながり ・地域支えあい推進活動	・支援を要望する人の声を聞くことができなかった ・家族の健康問題もあり、地域のことで手が回らなかった ・各家をたどれていない
交流	・ふれあいイベントの実施 ・豆講…一部の地域できている ・1回/月の班常会（以前は豆講と言っていた）はコロナ禍では書面形態で行っている ・誰でも店長になれるコミュニティカフェの立ち上げ ・エコライフ&マルシェ ・ぶらり街あるき（地域再発見） ・スタンプラリーin あたごまつり ・ふれあいまつり（学区内団体、学校等） ・人権学習 ・料理教室	・コミュニティカフェの認知度が低く、あまり活用されていない ・コロナ禍でサロン等ができず地域とのコミュニケーションができなかった ・コロナ禍により、従来実施の夏まつり、高齢者を敬う集い、しょうらいサロン、クリーンキャンペーンなどすべての行事が中止となった（現状把握がとれない） ・世代問わず交流のできる場ができなかった。特にコロナも関係している
地域活動	・民生委員と区役員による協議会 ・自治会 夜のパトロール約 20 年、子どもの見守り	・自治会未加入者の巻き込み。自治会未加入者との接点がない。年代ギャップ、古来からの慣習を嫌う。意識格差を認識しあっていない！他人事！ ・民生委員、健康推進委員と連携した行動 ・自治会員→非自治会員が増加してきており、その人たちとは付き合いがなくなっている ・自治会未加入者を減らせていない ・時代に合った自治会活動 ・一人ひとりの自発的な参加意識 ・ほとんどの項目ができていない ・黄色いリボン運動
健康づくり	・百歳体操（週/1回） ・まち中ウォーキング（私も実行しているが、年々増加しているように思う）	
高齢者	・一人暮らし高齢者の見守り ・茶話会（月/1回） ・陽だまりサロン、映画、講話（認知症、オレオレ詐欺）、グランドゴルフ、史跡巡り ・独居高齢者の集い ・高齢者を敬う集いの実施 ・高齢者等の生活相談	・高齢者の居場所づくり ・高齢者への日常的な声かけ ・自分の足で動きにくい人への支えが十分でない
子ども・子育て	・子どもの通学時の見守り ・登校時の子どもの安全見守りとあいさつ	・子ども食堂

	・毎朝子どもの見守り ・子どもへの学習支援、体験学習 ・小学校見守りボランティア活動 ・有志で子ども食堂をしている ・赤ちゃん訪問（生後3か月）	
防災・防犯	・防犯パトロール（駅前、市内） ・夜間パトロール ・まもりんピック（防災運動会） ・通学時立当番 ・災害用住民リスト作成	・災害の体制がわからない ・非常時の要支援活動（訓練または実際 のとき） ・防災体制の確立 ・災害などのいざというときの体制
生活環境	・地域清掃活動、啓発活動 ・公園清掃 ・集会所の清掃 ・河川清掃 ・粗大ゴミの収集（高齢者支援）	

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題	
交流	・イベントは自己満足で評価されている、まちの人は実践していない ・元気な方々の協力を得ること、理解を深めてもらうことが大事 ・若い世代と連携した取組み（地域おこし協力隊の存在、パワー）	
地域活動	・時代に合った自治会活動 ・いろいろと企画をする団体はあるが、市民の参加意欲が低い ・自治会未加入者（特に若い人）に地域情報がどれくらい届いているのか気になる ・団塊の世代が高齢者になったが、地域活動になかなか参加してもらえない ・コロナ禍による活動の制限、個人の行動自粛が大きく影響したため無力さを感じた ・いろいろな情報発信の仕方	
健康づくり	・健康が何よりの財産！（宝）と思う！ ・今日集まっている人間が、要介護者にならない（活力！体力！財力！） ・健康寿命への画期的な対策、企画	
高齢者	・介護、要護をする立場のお年寄りを支援 ・高齢者がふらっと集まれる場所とはどんな場所なのか。どんなもの・サービスがいいのか。具体的に知りたい ・独居高齢者の存在は口コミで伝わってきて知った→日々存在を知らしめる手立て ・移動販売車（高齢者支援、自分で買う意欲、認知症予防、井戸端会議の場づくり）	
外国人	・外国人への対応	
子ども・子育て	・子どもの数が減少した ・統計から児童虐待件数が多いことに驚いた。年齢層や不登校学生数なども知りたい	
孤立・孤独	・独居の家庭が増えた ・一人暮らしの家がある	
生活環境	・これから特に、崖、山の草木の処理が一自治会では問題が大きすぎてできない	

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・向こう三軒両隣の強化 ・困っている人がいるのか見えづらい ・地域でどのような方がおられるかの一覧をつくる
	自分自身	・人の出会いを多く持つこと ・日常生活の中での声かけ ・あいさつ ・あいさつとPR活動

		・気配り、目配り ・地域の方と気軽に話をする
交流	地域	・子ども、高齢者の居場所（空き家を活用したサロンづくり） ・地域におけるコミュニケーションの場づくり、提供 ・交流ができていない
	自分自身	・若い世代との価値観の共有
地域活動	地域	・自治会未加入者への情報発信（つながり） ・地域活動の担い手育成 ・自治会を退会する人が増え新規加入者がなく、減少するばかりである ・自治会への加入促進 ・自治会未加入者への課題あり ・生活相談会の定期的開催
	自分自身	・自治会参加 ・web や SNS を使った若い世代への地域の情報発信→担い手確保 ・自分の知識、経験を活かしたボランティア
	市・社協	・自治会加入の義務化 ・公共施設の利用ルールの緩和（夜間利用、飲食 OK など） ・交付金に対する規定が細かすぎる（安心応援ハウス） ・まち協組織への人材の提供、情報の提供 ・社協とは何かをもっと知りたいので教えてほしい
連携・協働	地域	・行政としてできる範囲、地域にどこまでやってほしいのか具体的に示すこと ・民生委員との連携
	自分自身	・民生委員との連携 ・まちづくり協議会組織を基盤としたチームでの取組み
	市・社協	・資金の助成、問題解決のためのアイデアの提供 ・公平主義があるのか、小回りがきかない ・支援体制の充実、アドバイス、柔軟な対応を！ ・先進地の事例を教えてほしい ・人づくり ・本日の資料（グラフ）等は傾向や総花的には理解するが、もっと具体的に示す
健康づくり	自分自身	・定期健康診断の受診 ・毎日の運動 ・食生活の改善
	市・社協	・健康寿命延伸の推進 ・健康診断などの結果で例えば認知症を遅らせるための方法。介護施設を使わなくてもよい方法 ・高齢者の定期健康診断への受診促進
孤立・孤独	地域	・地域からの置いてきぼりをつくらない。孤立に気づく！（家庭、年寄り、若者、子ども、家屋、公園、広場等 ホットラカシ撲滅！） ・デジタル化により高齢者の孤立をサポートする ・一人住まい高齢者との対話
	自分自身	・不登校生徒の居場所→コミュニティカフェの活用
支援の必要な人	地域	・高齢者支援、把握、見守り、その他 ・高齢者の見守り体制の整備 ・高齢者の定期健康診断の徹底 ・高齢者への運動支援 ・黄色いリボン見守り隊
	自分自身	・独居高齢者への声かけ、区長方針への協力 ・高齢者の居場所づくり

		・子どもの見守り
	市・社協	・高齢者の事務手続きがスムーズにできる体制づくり ・空き家を活用した居場所づくり（子どもから老人まで）
防災・防犯	地域	・防災の取組（自然災害、人災への対応）
	自分自身	・防災知識、意識を身につける、いざというときに生かす
生活環境	地域	・環境を守る（草刈り、山の斜面の草木刈り、溝掃除）
	自分自身	・定期的な町内一斉清掃、美化活動の取組
	市・社協	・山の斜面の草木刈り等（一自治会ではできないことを）してほしい

④湖南省のミライの姿

意見
・旧宿場町→地域福祉推進地域へ！ ・健康寿命日本一（男よ頑張れ！） ・行政と各自治会との懇談会→やってほしいこととやれることを住み分けておく ・もっと積極的な出前支援（自治会を活用したもの）、出しゃばり過ぎるくらいになってほしい ・住みやすいまち ・価値観の共有できるまち ・歴史の継承できるまち ・誇りの持てるまち ・一人のやってみたい！をみんなで応援できる地域 ・小地域内住民のコミュニケーションの増大 ・高齢者が安心して生活できるまちづくり ・自室に閉じこもらず外に出る ・互助の強化 ・健康な高齢者がイキイキ暮らすまちづくり ・若者が働ける所（企業誘致）、生活基盤確保、活躍できる場所 ・世代間交流が活発にできる場 ・世代を超えての交流ができる地域（若者の参画） ・一言でいえば、いつまでも美しい心豊かなまちであってほしい ・他の地域から見て、湖南省に住みたいといわれるまちになっていたい

⑤自分が元気であるためにこころがけること

意見
・体力、気力の維持から Step Up（スポーツやたくさんの人との出会い意見交換） ・体を良く動かすこと ・年若い行政や近所の人に頼ることなく、いつまでも元気でありたい（自分のことは自分でする） ・病は気からというように心をしっかりと持つこと ・若い世代との交流、多様な趣味を持つ ・よく寝てよく食べる、たくさん遊びたい ・自分ができることがあればいろいろな場へ出向く。基本は健康のために田畑の世話、作業をする ・体力づくり ・健康維持（ウォーキングなど体を動かす） ・食生活の改善と適度な運動 ・目標を立てる、今日の用事とか毎日の体力づくり（ウォーキング…） ・健康づくり ・心と体の健康づくり（食生活に気を付ける、ちょっとした運動） ・社会活動（仕事、人との交流）をする ・何か目標を持って継続して行う

■石部南小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり	・支えあい推進員選任 ・つながり ・支えあいに関する情報をまとめてお知らせする→作成途中 ・昼間（平日）に家にいる人の全世帯のデータ	・地域の絆が薄れてきている ・弁当配達サービス ・ゴミ出し、一人暮らしの人の生活支援 ・生活支援の仕組み
交流	・ドッチボール大会 ・場所づくり	・すべての地域の皆さんの居場所づくり ・異世代交流のイベント中止（コロナ） ・夕涼みの会（コロナ対策） ・居場所づくり ・気軽に参加できる集い、レクリエーション等 ・住民行事、寺、神社
地域活動	・宝援隊とするボランティア組織が現れた ・個人的に役員を受けてこられたのが、組織的に継続できるように変えた ・福祉部が立ち上がる	・参加者が決まってしまう拡大できない ・継続が難しい ・集合住宅等の自治会加入促進 ・自治会への加入率が増えていない ・会議、役割の整理、現代の生活にマッチした進行 ・回覧文書の翻訳サービス
健康づくり	・健康づくり（健康体操・筋トレ週2でできている）	・百歳体操
高齢者	・地域の自治会でサロン集会 ・西寺サロン ・サロン2か月に1回（去年は×） ・サロン（月1回以上、年10回）、コロナ禍でも実施 ・敬老の集い（コロナで集会は中止） ・敬老会	・独居高齢者への支援 ・認知症を知る勉強会 ・男性のサロン ・高齢者の積極的な参加ができなかった ・生活支援（ゴミ出し、買い物、草引き等々） ・高齢者の集まれる場所づくり
子ども・子育て	・子ども食堂毎月開催できた ・ヨガ、リトミック、ベビーマッサージ、こあらっこ ・通学の見守り	
外国人	・外国人対応	・外国の人の母国料理を教えてほしい
防災・防犯	・パトロール ・防災訓練 ・災害時要支援者の把握 ・見守りリストの作成 ・地域で災害時に支援が必要な人の把握（守秘義務があるので、限られた人だけ）	・災害時要支援者の把握
生活環境	・デマンドタクシーの試み ・デマンドタクシーの実証実験 ・クリーンキャンペーン ・通学路の草刈り ・区内の清掃、草刈り	・ゴミ出しと協力 ・環境維持活動

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題
支えあい・つながり	・コロナ禍で集まる機会が減ったので時々訪問すると喜ばれる→サロンが実施できないので ・高齢化の進行により、権利の主張が強化（自分のことは自分（家族）で責任を持つから周囲で守ってもらうのが当たり前の風潮、時代の流れ） ・支援が必要な方を見つけられない、気づけない
交流	・南学区内に（店、カフェ）がない、ちょっとした居場所が必要
地域活動	・若い転入者の方たちの自治会に対する考え方が変化している、個人主義が多い ・今の区組織では対応できないので、区民の考えを知るために代表者会議を重ねていくことにした ・自治会への加入率が低いところで困っている人への支援の必要性
高齢者	・認知症についての講座、9月予定 ・生活支援システムの構築 ・独身高齢者増 ・高齢者増によるサロンへの誘い ・介護タクシー ・認知症の方々の支えあいの仕組み ・世帯主が亡くなった後の実行しなければならないこと（フィナンシャルプランナーを依頼し講座を計画中）
若い世代	・息子が外に出て将来戻ってこない（世帯数の減少化） ・若い人は仕事で地域に関われない
孤立・孤独	・孤立を防ぐため、ウォーキングやサロンに誘いたい（居場所づくり）
外国人	・外国籍の人との情報交換

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・若い世代が郷里として地元を認識すること ・助け合える地域づくり ・生活支援（ゴミ出し、買い物、草引き等々） ・困っていることの吸い上げ ・各家庭の状況を把握して、助けが必要な人を知っておく
	自分自身	・話し相手 ・気にかけている人の話し相手 ・声かけ（近所） ・隣近所の小さなふれあい・助け合い ・隣近所の助け合い ・声かけ、運動する ・人の話を聞いてあげること ・生活支援 ・（ゴミ出し等の）生活支援チームをつくる ・各家庭の状況を把握して、助けが必要な人を知っておくことを進めている
交流	地域	・地域の方の居場所づくり（サロン等） ・次世代の人との交流の場 ・皆さんが気軽に参加できる環境 ・行事、活動の精選、整理（つながりや地域の支えを多くすると、それに時間を費やし個が埋没してしまうので）
	自分自身	・行事への参加 ・地域内での交流が活発になるよう、行事には参加する ・近所の人との会食の機会を増やす（ポストコロナ）

地域活動	地域	・自治会の必要性を区民に理解してもらう ・地域活動の担い手 ・子ども会 ・婦人会 ・サロン開設（情報交換、コミュニケーションをはかる） ・集会所の常時開放 ・老人が自由に集まれる場所の提供（例：集会所の終日開放）
	自分自身	・区の組織を継続させるための協力 ・自治会の必要性は特に若い人に理解してもらう ・自治会活動の活発化
	市・社協	・まち協・自治会への補助金アップ ・互助に対する予算を増額し、ボランティアにも少しずつ報酬を出す
連携・協働	地域	・代表者会議を2か月に1回程行い、プロジェクトチームをつくりたい ・IT技術の普及（高齢者含め）。自分から情報発信できる人を増やす ・情報を受け止めて対応できる仕組みをつくる
	自分自身	・困りごとを行政につなぐ役割 ・相談相手になる、行政機関につなぐ
	市・社協	・住民の目線で、役員のための会議ではだめ ・地域の実情を正確に理解するため、密着度を上げてほしい ・地域まかせにせず、改善した姿、進むべき方向についてのビジョンを地域と共につくる努力をする ・情報提供
健康づくり	地域	・ゆったりウォーク（健康増進） ・多くの人が健康な状態が長く続く
	自分自身	・まち協でゆったりウォーキング ・プチ筋トレ体操
若い世代	市・社協	・少子高齢化社会に対して、若い人（20～30代）が結婚しない。市が集団見合い等の場を設定する
孤立・孤独	地域	・依存先がない人をなくす（ひとりぼっちの人をなくす）
支援の必要な人	地域	・子育てしやすい地域 ・高齢者の見守り ・高齢化に伴い買物支援・通院支援が必要 ・送迎（買物、通院）、買い物難民を助け合い
	自分自身	・送迎のシステムを考える→みんなで
	市・社協	・高齢になったときの援助手段→市のバス回数を増やしてほしい ・情報提供等（困っている人に寄り添えるように）支援 ・認知症や障がい者の情報提供 ・高齢化は長生きでいいことだと思っていたが、問題が多いということのようで、その問題は何なのか考え直す必要があるのでは。お金や人の力が多くかかるなど負のイメージが最近クローズアップされている
防災・防犯	地域	・防災関係の取組み、備え ・消防団 ・自治会で要介護者のリストを作成し、災害等非常時に備える
	市・社協	・災害時の支援
生活環境	地域	・草刈り（地域に貢献）
	自分自身	・草刈り
	市・社協	・デマンドタクシー ・販売車が住宅地に来るようにする ・個人の家の前までデマンド型乗り物が来てくれること

④ 湖南省のミライの姿

意見
・災害に強い市 ・高齢者が暮らしやすい市 ・10年後85歳、健康で自分のことは自分で ・高齢化が進んで、若い人たちから外に出ていく。会社をもっと増やさないと若い人は外へ ・湖南省は緑があっていい ・魅力のある市であってほしい ・希望のある市（資料の現状からは何も希望が見られないので） ・福祉施設の充実（居場所づくり、まち協施設のリニューアル化等） ・安心・安全で助け合える社会 ・住宅地の中にスーパーができていく（規制改革） ・デマンド型交通システムができていく→交通から玄関 ・老若男女のすべての区民が生き生きと暮らせる地域 ・ボケず健康で長生きし自立。自立不可になれば安心できる支えあいシステム ・インフラ、ライフラインの安心・安全への先取り対策 ・お金がなくても心にゆとりが持てる地域 ・若い人の住みやすいまち ・石部新駅により栗東・野洲・守山・湖南省となるように ・財政面で豊かになって、その税金を介護等に補填する ・企業・事業所の誘致を積極的に推進する ・スマホ等で気軽に悩みを伝えられるネットワークをつくればよい ・自分たちの意見が行政に反映できていると実感できる仕組み ・ひとりぼっちの人をなくす（生活は一人でも、相談できる人や「助けて」が言える人になれる）

⑤ 自分が元気であるためにこころがけること

意見
・毎日の食生活、ウォーキング体操、趣味（手芸等）を勉強したい。とりあえず外に出て人と会話を楽しむ ・自分のことは自分で、人にあまり頼らないことを心がけている ・自分の足で歩く、クヨクヨしない、一日一生として生きるよう心がけている ・ストレスをできるだけ抱えない ・筋トレ ・自分の健康を維持すること ・ストレスの調整（適度のストレスは必要） ・引きこもらない→人と交わるようにする ・適度な運動を継続する ・生きがいを見つけ、体を動かし、考え、会話を通じてボケ防止 ・体力づくり ・健康は食事にあり ・体を動かす（農業、趣味等） ・家族や友人、隣人との関係が良好に保てることが重要 ・他人をけなさない文化を広げること ・適度な運動と地域との「つながり」を大切にしていきたい ・集団に埋没しないようにする

(3) 甲西北中学校区 (岩根・菩提寺・菩提寺北小学校区)

■岩根小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
交流	・球技大会 ・区民ハイキング ・グランドゴルフ大会 ・盆踊り ・和みの会 ・岩根クラブ ・映画鑑賞 ・空中植栽 (さつまいも)、多肉植物	・コロナ禍で計画的な行動ができなかった →コミュニケーションの継続が必要である ・ふれあい区民まつり、納涼祭、敬老会 (すべてコロナウィルス感染予防のため) ・多人数で集う行事はコロナでできなかった ・盆踊り ・サークル活動 ・年代を超えて集える場
地域活動	・アンケートはできた (昨年度)	・コロナ禍による影響で予定どおり事業計画が実行できなかった
健康づくり	・いきいき体操 ・百歳体操 ・健康料理教室	・グランドゴルフ
高齢者	・ふれあいサロン ・老人会行事 ・サロン等へのお誘い	・敬老会 (コロナでできない) ・コロナで何もできなかった。民生委員なので特に高齢者の健康のため何もできなかった
支援の必要な人		・通院患者の個別送迎 ・買物の不便な人のために計画はしているが実行ができてない ・配達サービス
防災・防犯	・交通見守り隊 ・通学の見守り ・住民の安全安心カード作成	・災害資料作成 ・ロードマップの作成
生活環境	・河川愛護 ・生活排水清掃 ・ゴミステーションの見回り・清掃活動	

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題
支えあい・つながり	・まちづくりセンターを中心とした学区単位で考えると、区や地域ごとに同じ様子ではないので難しい ・旧在所の顔見知り同士でもプライベートなことに立ち入るのは難しい。ましてやアパートや長く同じ所に居住されない方、またその子どもを守る活動は何かないか考えたいが、実のところ難しい→もう少し小さい単位 (となり組) くらいで見ていくのがいいのか
地域活動	・コロナのときに何ができるかをヒントがあれば是非教えてほしい ・コロナ禍の影響等行動が制限される中でのコミュニケーション、地域活動の実践 ・今していることで十分である
高齢者	・独居高齢者の個々人のフォローをどのようにするべきかがわかった ・配達サービスについて、販売業者と買う側との同意をするためには時間がかかる

③湖南省のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・若年層の不足、地域参加人口の増
	自分自身	・身近な暮らしの中で高齢者等へ声かけをする ・となり、近所の方々との支えあい活動（話し合い、茶飲み友達） ・支えあい推進員としてみなさんがよかったと思ってもらえる行動をしていく ・自分に関わるすべての人にリスペクトを持って接する
交流	地域	・年齢問わず参加できる行事（夏まつり、盆踊り） ・みんながふれあう場づくり ・百歳体操のできていないところがある。コロナでなくなったところもある。地域で集まれる場をつくるために取り組む ・いろいろな人が集まって話せる機会づくり（サークル、クラブ、チーム）
	自分自身	・映画鑑賞で一人でも多く楽しんでいただくようにしている。2か月に1回程度
地域活動	地域	・従来していることを取り組むのみ
	自分自身	・ボランティアで活動する
	市・社協	・自治会に対する人的支援 ・ボランティアポイント制によるコミュニティ、外出の機会の提供
連携・協働	市・社協	・地域との話し合い ・地区への支援金を受け取りやすくする ・交付金をたくさん出すこと
支援の必要な人	地域	・高齢者の世帯、特に独居高齢者の見守り ・子どもの見守り
	市・社協	・SDGsを踏まえて不要になる食料品を回収してこども食堂等へまわせる仕組み（みんなが参加しやすい仕組みづくり） ・買い物や病院の送迎 ・弱者目線の行政
防災・防犯	地域	・防災訓練 ・通学の見守り
生活環境	地域	・インフラ・交通の利便性
	市・社協	・治安の良い社会

④湖南省のミライの姿

意見
・若い世帯が湖南省で生活できるよう魅力を計画してほしい ・外国人居留者が右肩上がりで増えている現状に不安を感じる（いい人ばかりとは限らない）言葉や文化の違いをどうやって乗り越えて行けるのか、将来が不安 ・定年後週2日、3日ほど、半日仕事ができる場所が増えればいい ・子どもたちが元気でいられる場所があって、親子共に安心して暮らせる地域 ・若い人が暮らしやすい市 ・元気な子どもの姿は老人の元気にもつながるのでは ・まち協と区の親密な連携が完成していること ・困りごとを年々減らしていくように地域の方と協力していく ・パソナのような大企業の誘致 ・活力ある社会 ・特色ある社会 ・若い人が出て行かないまちづくり

⑤自分が元気であるためにこころがけること

意見
・クヨクヨしない、前向きに生きたい ・体力管理 ・仕事ができる体力がある間はやりたい。子どもたちと一緒に暮らせる環境づくり ・地域で仲間をつくる。自分ができることで何かやりがいを見つけたい ・体を動かす ・食えること、運動すること、リズムのある生活 ・体（運動）食（食べる）ハミガキ、入浴など生活を大切にすることを心がける ・ウォーキング ・気に病まない、ストレスをためない、ワークアウトする

■菩提寺小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり	・話し相手 ・見守りネットワークの一元化 ・地域支えあい推進員活動 ・つながりとしては、民生委員になり、いろいろな活動に参加させていただくことができた	・個人情報を守るため、やはり家族構成がわからない（高齢者で独居なのか、2人住まいなのか）
交流	・自治会館にカフェ ・まち協によるサロン・カフェの開設 ・集まりの場所 ・ふらっと行ける場所 ・住民参加による勉強会 ・住民の集える場所（まち協（まちづくりセンター））を定着させる。 ・カフェの開催（現状週3日）→サロンの開催と、共に集える場へと成長させる ・第2自治会館（集いの場）	
地域活動		・区としての活動計画はできているが、高齢者の見守り活動は忙しくてできない。その他の区役員のなり手、人事活動に苦労している ・コロナ禍の中、事業はできなかった ・コロナ禍で自治会活動の大半が実施できなかった ・現在何に取り組むかを進めているようだが、何日（何年）までたっても具体的に何も進まない ・サロンなどのボランティアの継続支援によるつながりの強化
健康づくり	・毎週月曜日「百歳体操」 ・自分自身も含めて健康であることを第一に取り組んでいる	・百歳体操などリーダー不在で解散したりしている
高齢者	・高齢者・独居老人の訪問（声かけ、民生委員） ・認知症啓発の継続 ・介護予防の意識啓発（フレイル予防講座） ・毎月1回「なごやかサロン」	・認知症介護者のつどい ・認知症予防システム ・高齢者の出かけやすい手段（足が悪くて1kmの距離の移動はあきらめてしまう）のシステム化ができていない。まち協でイベントがあっても、まち協そばの住民は参加できるが、離れているところに住む住民に参加するための移動手段の手当てができていない
子ども・子育て	・すくすく広場 ・子ども食堂の定期開催継続 ・子ども、子育て中の親の集える場づくり ・子ども（中学生）の地域での勉強場所の設定	
支援の必要な人		・対象者把握、障がい者リスト ・引きこもり家庭のアウトリーチ

防災・防犯	・防災訓練 ・青パト・子ども見守り隊（登下校の見守り） ・各自治会（7区）の連携による訓練 ・菩提寺地区防災連絡会設立 ・自治会単位の防災部連携 ・年末の防犯および火災防止の呼びかけ	
生活環境	・小清掃および大清掃	・交通・移動の手段 ・生活支援 ・コミュニティバスを利用したいが便が少なすぎるため、無料券をいただいても使用できない
その他	・ワークショップ形式であれば事前に資料を配布し、このページは作成済みで参加し、ベースラインを合わせ、時間を有効に使うこと	

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題	
支えあい・つながり	・あまり住民に互助を訴えるとかえって負担になることもあり、ちょうどよい頃合いが継続できるポイントかもしれない。そうすると、特定の人に寄りかかるのではなく、多くの人が支え手となる ・個人情報保護法により、誰が？どこに？家族？一人？等の情報がわからない。そのため独居高齢者の把握・見守りもできない ・市がどこまで個人情報を提供できるのか	
交流	・各自治会館の中（7区）で集える場をつくるのがよいと思うが、その支援するボランティアの人材をどうするか？ボランティアの次世代にバトンタッチする方法、うまく継続していけるよう	
地域活動	・自治会参加しない世帯、人（情報が得られない、出せない）に対し、どう市が取り組むのか	
高齢者	・区三役に独居高齢者の見守り活動は不可能である。まず見守り活動は民生委員に協力いただいております、独居者の親戚知人等がわかればお願いしているし、日々ご近所の付き合いがあり、現在は問題がない ・独居高齢者の孤立をどう防ぐのか？どう地域とつながっていくように進めるのか、どう地域で見守っていくのかその方法を現在模索中→協議体で話し合い ・まち協で中心となって何を企画するにしても、まち協へ高齢者にどう足を運んでもらうか、足を運べる手段をどうするか？ ・高齢者ドライバーの免許返納支援（運転が危ないケースが多い）	
支援の必要な人	・車椅子用の車サービス（貸与）	
その他	・3年前の懇談会の結果に対するアクション・改善が見られない。今後、結果としてのアクションプランおよびその状況把握のシステムが必要 ・今後、懇談会を開催してもらえれば、年齢を分けて招集してもらいたい ・課題抽出ばかりで、具体的な方策が立案できないことが問題	

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・小さな自治会単位での見守り意識の広がり、つながりづくり ・地域の見守り体制構築、体制の充実
	自分自身	・地域住民への声かけ、ちょっとしたおせっかい
	市・社協	・住民がお互いに支え合おうとする意識を高める取組み

交流	自分自身	地域の交流の場を提供し、隣近所の付き合いを密にする機会を提供すること
地域活動	地域	- 高齢者・子どもの地域福祉は、区として取り組める内容は取り組んでいく。住民を巻き込み取り組もうとするが、協力度が低いため、役員のみでの取り組みを進める - 具体的な計画、対策を立案すること。話し合いばかりで進んでいない
	自分自身	- 現在は区役員であり、力のある限り取り組むつもりであるが、高齢のため継続が困難 - 社会福祉活動への積極参加
	市・社協	- 区長や民生委員で福祉全般に取り組む手間も暇もなく、やらなければならないが難しい - 高齢者も外に出る意識を持ってもらったり、市や社協が住民全体の意識変革への何か取り組みをしてもらえないか
連携・協働	市・社協	- 住民が「支える」ばかり言うのではなく、高齢者の意識改革も必要では 「公助に限界がある」といった認識を捨ててほしい。高齢化、特に2025以降の問題については50年以上前から予想できたこと。市、社協はそれに対する準備が遅れていたが、今こそキャッチアップすべき - 市も具体的に前に進むようにしてほしい。形式ばかりで何も前に進まない
健康	自分自身	一人ひとりが健康維持に努める
支援の必要な人	地域	- 高齢者の出かける気持ちを継続できるような「足」の確保。自治会館に行くにしても遠い人もいる - 独居高齢者へのサポート - 病院への送迎 - お弁当サービス
	自分自身	高齢者、子ども、独居の方との話し相手
	市・社協	- 少子高齢化施策の充実 - 福祉を充実させてほしい
生活環境	地域	暮らしやすい湖南市、地域で買い物、病院、集いの場等不自由なく行けるようになってほしい
	市・社協	コミュニティバスの回数を増やしてほしい

④湖南市のミライの姿

意見
- 市と自治会は異なる。福祉に資本投入できない。たとえば活動費（独居老人の見守り活動）等を支給してほしい - 認知症になっても排除されない - 少しまわりの住民がおせっかいしてくれる - 近くで出かけられる、人と話せる場所がある - 小回りのきく移動手段が網羅されている - 他市から先進地見学に来るくらいの、何かに長けた市となって欲しい - 少子高齢化に対応した市 - 移動買物車（スーパーで買い物できる物） - 己を知って欲しい、特に高齢者 - 若い世帯が住みたいと思うまち、市に

⑤自分が元気であるためにこころがけること

意見
・健全な日常生活を送り、将来のために家族への支援協力を願い、親戚もあわせお願いしていく ・介護予防の自助的取組 ・地域の関係性を大切につないでいく ・家に閉じこもらないことが大事（市、社協、まち協で高齢者が出かけられる場所・手段の提供が必要） ・常に世界情勢、社会情勢を把握する ・やはりなるべく家から出て、人とお話する！ ・人と関わること

■菩提寺北小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり		・見守り体制の確立
交流	・バンブーハウス ・かぶと虫の育成	
健康づくり	・仲間でテニス	
高齢者	・高齢者サロン ・高齢者・独居老人の見守り ・安心応援ハウス「えんがわ」	・サロン参加者の開拓
防災・防犯	・世帯台帳の作成 ・災害時の援護体制 ・防災訓練	・消防団員の増員 ・災害時の援護訓練
その他	・何ができたかよくわかっていない。できたこと（取り組んだこと）を知らないことが多い	・何ができなかったかわからない

②新たに見つけた・気づいた課題

分野	新たに見つけた・気づいた課題
地域活動	・自治会を退会していく現実、役員の大変さ ・自治会に任せすぎなことはないか

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
交流	自分自身	・交流の呼びかけ
連携・協働	市・社協	・地区の課題で地区では解決できないこと（たとえば自治会館のバリアフリー化や駐車場の確保など）にサポートが欲しい
若い世代	市・社協	・若い人が市内に移り住みたくするようになるにはどうすればいいのかであるとか、今の若い人が2人3人と子どもを増やしたくなるには何をサポートすればいいのかを考えてほしい
支援の必要な人	地域	・高齢者の支援 ・子どもの育成 ・高齢者同士の日常的な交流、互いの見守り活動
	市・社協	・安心応援ハウスの費用の負担を増額希望！！支出に文句を言わない（自由に使用できるように）
防災・防犯	地域	・防災チームの補強

④湖南市のミライの姿

意見
・生産年齢人口が今より右肩上がりに増加してほしい ・暮らし良いまち ・若者の増加と、行事への若者の参加

⑤自分が元気であるためにこころがけること

意見
・ウォーキングで元気に、そしてポックリ死ねるようにする。健康にそこそこ長生きする ・地域の中での役割を引き受けて体と頭を使うこと

(4) 日枝中学校区(下田・水戸小学校区)

■下田小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり	・犬の散歩のとき、声をかけ合う ・地域見守り隊 ・ちょっと手伝い(草刈り等)	・見守り訪問の頻度(回数)の減少(コロナ禍の影響) ・生活に密着した困りごと(衣食住に関すること)は、個別対応があまりできていない。お助けマン的なマンパワーの発掘ができていない
交流	・ちょこっとカフェの開催(令和2年度はコロナ感染予防のため休止) ・コロナで中止になることが多かったが、行事や複数で行う催し物はできたと思われる ・納涼祭 ・麻雀教室 ・世代間交流 ・お田植え祭り(日枝神社) ・文化体育活動 ・体育まつり、泥りんピック、お月見コンサート ・ちょこっとカフェ、子育てサロン、ちょこっと手伝い、もちつき大会、青少年育成事業、ふれあい事業 ・グランドゴルフ ・ゴルフコンペ	・コロナによる地域での行事、親睦等が何一つできていない(1~2年の間) ・区行事、コロナのためすべて中止 ・夏まつり、運動会、集合しての敬老会、いきいき百歳体操、カラオケ会合 ・夏まつり ・区の行事 ・お月見コンサート ・物づくり教室、勉強会 ・人権まちづくり懇談会
地域活動	・コロナにより各活動は2年くらい休止状況となっているが、予定した取組み、敬老会、草刈り等は形を変えて実施したことがある ・地域の情報発信「地域支えあい通信」の発行、令和2年10月より毎月1回発行している	・不参加の人への呼びかけ ・(R2年以降)事業計画を建てるも、台風の影響、コロナ感染症で大半の中止を余儀なくされた ・訪問活動の活性化
健康づくり	・いきいき百歳体操 ・ラジオ体操 ・ラジオ体操(下田小)ポスター(全戸配布)	・いきいき百歳体操拡大 ・グランドゴルフ
高齢者	・高齢者・独居高齢者の見守り訪問 ・引きこもりがちな高齢者への支援(ふれあい給食の申請、寝たきり高齢者激励金の申請) ・認知症予防「脳トレ教室」 ・認知症講座 ・老人クラブ活動 ・老人クラブ、なごみ会の女子会	・敬老会 ・老人クラブとの連携活動の継続
子ども・子育て	・子育てサロンの開催	
防災・防犯	・防災講習会、訓練 ・防災訓練	・小学校のスクールガードの人が足りない

	・自治会による防災訓練 ・地域防災（避難所訓練、防災研修会） ・消火栓器具の点検 ・スクールガード ・交通安全立ち番 ・名簿の作成 ・見守り票の支援作成 ・台風接近時の注意見守り ・防犯灯管理増設 ・行事ができなかったので、防犯灯の設置ができた	
生活環境	・草刈り ・川の清掃 ・年1回の県下一斉草刈りはなんとか区の行事でできている ・老人会による地域の清掃 ・河川清掃 ・環境整備	

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題
支えあい・つながり	・個人的につながりをつくるのが今は大切になってきたと感じる ・あいさつのできない大人が増えてきているし、子どもの方がしっかりとあいさつをしてくれるので、大人があいさつできるようにしていくべき ・一人暮らし世帯の見守り ・コロナ禍における新しい組織体制の構築 ・情報交換のデジタル化 ・安否確認の一本化 ・ゴミ出しができなくて困っているという相談が市に行ったそうだが、そんな簡単なことすら解決できないという脆弱さが露呈されたように思う。昔の隣近所の助け合いが薄弱になっているので、地域の中で「お助けマン」的なマンパワーの発掘が一番重要だと思われる
交流	・食というものを通じて、子どもから高齢者の方々まで、いろんな交流ができる機会があれば興味はある
地域活動	・参加しない人にどう参加してもらうか ・コロナ感染症で事業中止としたが、コロナ感染症の影響を避けながら、活動するプランニングができなかったことが残念。今後の課題となる ・コロナ禍において可能な事業 ・コロナのためボランティア活動のほとんどができていない状態。今年度は災害講習に参加できるよう、災害時に役に立つ料理講習を推進員の中でやって行きたい
高齢者	・脳トレ・百歳体操等はできた→会場をもっと増やしたい ・百歳体操、脳トレ、ゲートボール等、誰もが参加しやすい事業を増やして、ほぼすべての高齢者が何かしら地域や仲間とつながれる機会を増やしていきたい ・高齢者がどんなサービスを受けているかわからない ・独居高齢者（女性）の自宅に閉じ込められた事故、独居高齢者（男性）の浴室で気絶して翌日救出された事故→緊急通報システムのPRと普及 ・高齢者が増えて、田んぼ（耕作）ができない→助けが必要 ・高齢者一人世帯の安全や見守りについて、地域としてどのように関わるのか ・高齢者の夫婦および独居生活者が増えてきたことによる買い物の難易度が高まっていることや死亡につながっているケースがあったこと
生活環境	・十二坊温泉へのバスがない（いい施設が利用できない） ・十二坊温泉用のバス（車両）対応

	・通学バスの配置（特に大谷区） ・買物専用バスがあるとよい。下田⇄イオン（現在、ほとんどバス対応なし） ・車が運転できる間はあまり不便を感じないが、運転ができなくなったら生活に困窮する地域であることを痛感している ・ヤマカワ食品が減少→移動車の食品販売をもっと充実 ・食事の宅配（メニューが多くあること）
その他	・コロナの終息あるのみ

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・近所との付き合いを多くする ・困っている人の現状を知ること（ただし、行政は知っていても個人情報等を理由に教えてくれない） ・独居老人、独居者を守る、見てあげる人を育てる ・地区内で高齢者が増加しているので見守り、声かけを行う ・「お助けマン」の発掘 ・高齢者の話を聞く（困ったこと）場を多く設置。訪問も可
	自分自身	・近所の声かけ ・地域における見守り、声かけ ・隣近所との会話 ・見守り活動 ・人と人とがつながり、会話を大切にする ・組内の人々との、親睦を図る（情報を把握するため） ・どうしても外へ出にくくなるが、外出するよう心がける ・困りごとの解消サポート、仲間づくり、育成 ・元気よくあいさつを交わす
	市・社協	・情報の共有化（プライバシー保護の壁を下げる） ・助け合いができる雰囲気高めめる広報的なものが必要であり、資金援助をする
交流	地域	・子どもや高齢者が交流をする機会を増やすこと ・地区の行事等への参加者を増やす ・世代間交流の取組み ・地域住民相互が交流を図れる機会を増やす ・サロン、百歳体操、老人会等、地域の交流会に参加しない、また参加しにくい高齢者への積極的参加の支援
	自分自身	・参加呼びかけを多く実施する ・食でつながる地域に少しでも力になれば ・軽運動への参加およびコミュニティづくり ・機会を増やすように努める ・趣味を通じて仲間づくり
地域活動	地域	・自治会の認知を深め、全戸による活動参加およびコミュニケーション活動の充実 ・高齢化している地域の自治会活動の存続について考えること ・自治会運営委員のなり手不足解消 ・従来の大きな行事ではなく地味な支援 ・老人会の中でもまだまだ元気な方がおられるので、そのような方に積極的に声をかける ・有償ボランティア的なものでまち協が負担する体制をとる ・自治会、特に各組で行う事業を一つ増やす（誰もができる簡単なことで）。何かをやれば、仲間の中で何かが生まれると思う。組活動の充実が大切 ・子ども会会員減少、運営委員のなり手不足解消

	自分自身	・役員としての地域貢献 ・ボランティアには可能な限り参加していこうと思う ・個人としてドライバーが可能な法体制（送迎等）、費用を含む ・自治会、民生委員等への働きかけ
	市・社協	・ボランティアには限界がある ・負担にならないボランティア活動の推進（一部有償化） ・ボランティアに頼らない福祉活動をするべし（有料化も検討すべきか） ・地域支えあい推進員および組織、まち協により多くの補助金・交付金が必要 ・趣味発表の場づくり ・シルバー展覧会 ・シルバー展示コーナー
連携・協働	地域	・必要なところには必要なお金（予算）を使う
	市・社協	・各団体（水利組合、農業委員会、環境保全会、市役所、JA）の取りまとめができないか ・学校、地域団体の声を聞いて政策に生かす。第3層の育成が必要となる。どのように対応するか知りたい
健康づくり	自分自身	・老化を防ぐため、毎日 5,000 歩を歩く ・好きなこと（ゴルフ）等で健康を維持する ・健康の推進活動各場面（子ども、老若男女）で料理教室をする ・食の大切さについて、理解を深める活動→健康寿命を延ばす ・元気であることを第1目標にする（元気であれば何でもできる） ・認知症予防のため趣味を続ける ・日常生活で元気な間の就労
	市・社協	・健康推進に対する広報をもっと市にしてほしい
支援の必要な人	地域	・少子化に伴った子ども支援 ・高齢化率が高まっていることから、健康寿命を高める活動、地域見守り、声かけ運動 ・65 歳以上の一人暮らしが多くなるので、声かけを地域で進める ・認知症予防の取り組み ・高齢者（庭の剪定、雑草取り、ゴミ出し等） ・高齢者の就労支援
	自分自身	・草刈りや剪定等、要望があれば行くようにしている ・独居人に対する一声活動 ・独居者声かけ
	市・社協	・ゴミ出しができない（マンパワーが必要）→水戸地区（まち協）では 50 円集めてタクシー利用が実働している ・サービスの一部低有料化 ・子ども食堂やその高齢者版の場所やイベントの開催
オンライン化	自分自身	・オンライン化の促進により、次世代により便利なシステムづくりに努力
	市・社協	・パソコン、スマホのできない人への応援
防災・防犯	地域	・空き家の防災チェック ・通学、通園の安全確保
生活環境	地域	・高齢化の進行に向けての交通アクセス、医療体制の充実 ・移動手段（必要品の買い物、通院等） ・買い物が楽にできる地域づくりにすること ・自分の持っている土地（田んぼ含む）、家の将来が心配
	市・社協	・バスの運行の増便 ・十二坊温泉（行き、帰り）バス対応 ・無料の交通手段の展開と拡充（買物、通院、その他何でも可）

	・ふれあいバス等の交通網整備の改革（路線の再編成等） ・高齢者や車のない人の足の確保（コミュニティバス） ・子どもがキャッチボールやサッカーをする公園（広場）がないのでつくる ・気軽に出会い、立ち寄れる雰囲気づくりのまちであること ・若者が住みたいまちづくり
--	---

④湖南省のミライの姿

意見
・グループホーム建設中（中学校区に1つ、市の方針） ・今後、日本は高齢化が進み少子化になっていくので、高齢者が出やすい場所をつくってほしい ・ボランティアは無料でないといけない ・年齢を重ねても動き回ることができる交通体制 ・人口の減らない施策をしていただきたい ・子どもや高齢者の方々の集いの中に、職に関する何か加わっていてほしいと思う ・もっと若い人がボランティア活動に積極的に参加できる地域になってほしい ・各自治会への支援強化、住民負担の軽減 ・安心して出産できるシステムづくりと訪問医療の充実化 ・デマンドタクシー ・無料バス ・移動スーパー ・いつでも、どこからでも買い物車があるように ・子どもの声が響くまち ・老人会の参加者を増やすことで生き生きした市となる ・例えば、まちづくりセンターに困りごとの相談があれば、地域でできる人があれば依頼する ・逆に10年～20年前の姿→地域の行事の活性化（子どもから、年寄りまで参加できる行事） ・高齢者も年少者も生き生きと活躍できるまちづくり ・就労機会の増加 ・働き世代が住みやすいまち ・子ども対策 ・地域住民の交流が気軽にできている

⑤自分が元気であるためにこころがけること

意見
・友達を多くつくる ・ほどほどの運動と食生活（自らを律するしかない） ・ウォーキング、サイクリングなどスポーツを進んでやる ・近所との付き合い ・元気であることは、とにかく活動することが第一！！ ・元気であるためには、健康でいること、そのためには食を大事にしていきたい ・好きなこと（家庭菜園）をがんばって、心身ともに健康でいたい ・体と心の健康のためにできることをする。運動食生活、趣味の活動（ボランティア）→精神の健康、休息 ・自分が必要とされる「仕事」「自治会」「老人会」「シルバー」「その他」に参加すること ・引きこもり・閉じこもりをしないこと ・仕事ができる間はしっかりと就労→自分に見合ったスポーツと仲間とのコミュニケーション ・適度な運動、ウォーキング、趣味、ゴルフ ・毎日歩く、目標を持って毎日8,000歩 ・人との会話、運動 ・積極的に可能な限り物事に取り組む ・適度な体づくりとして、農業、シルバー

- 定期的な健康診断
- 健康づくり（健康チェック、運動、サークル仲間づくり等）
- 食生活のコントロール
- 興味項目を実行していく

■水戸小学校区 主な意見一覧

①できたこと・できなかったこと

分野	できたこと	できなかったこと
支えあい・つながり	・支えあい活動 ・要支援者（7名）への声かけ ・話し相手 ・見守り、話し相手、ゴミ出し ・支えあい支援（車で病院等移動） ・付添送迎サービス、その他の支援 ・支えあい活動として、通院・買物への車での送迎サービスはできている ・まち協の支えあい活動による、送迎支援ができている。コロナ禍も動いている ・通院、買い物等の付添送迎支援、つどいカフェ ・買物支援を行っていたが送迎支援に切り替えてくれた ・送迎サービス（自宅から買い物先、病院などへ送迎）	・絆づくりを推進するため、地域活性化部会を新設したが、コロナ禍で活動できず ・生活困難者の発見（行動） ・独居生活者を外に出すこと ・引きこもりの人への声かけはハードルが高すぎる ・引きこもりの相談 ・引きこもりへの対応
交流	・男の料理教室、料理を通して男性の居場所 ・十二坊ハイキング参加 ・十二坊温泉 ・集いカフェもコロナで今休み中	・コロナでイベントの中止が多い（まちづくりフェスタ、団地祭、納涼祭） ・コロナで活動できてない団体・活動が多い ・一人暮らしの方の集いはできていない ・男性の方の参加を多く ・サロン（4～9月） ・カフェ（5・6月） ・高齢の参加者が増加し、送迎が必要になってくる
地域活動	・屋外活動	・年々、ボランティアも高齢化して、事業が継続できるかどうか不安
健康づくり	・いきいき百歳体操	・認知症の予防（いきいき体操）
高齢者	・高齢者のつどい（主として独居）、ふれあいサロン、集いカフェ ・ふれあいサロン	・認知症予防の見守り ・認知症かどうか等の声かけは、会う人にはするが、なかなか訪問までは限りがある
子ども・子育て	・子ども広場 ・子どもたち通学時の見守り ・子どもの見守り隊が週1（水）だが定着してきた ・子どもの見守り、あいさつ運動 ・小学校登下校見守り隊	・子ども食堂
外国人		・外国人への声かけ ・外国籍住民との交流 ・日本語教室の支援
防災・防犯	・命のバトン ・防災チームはスタート	・防災訓練
生活環境	・公園の草刈り、ゴミ拾い等美化 ・公園のイルミネーション ・屋外清掃、草刈り ・デマンド	

②新たに見つかった・気づいた課題

分野	新たに見つかった・気づいた課題
支えあい・つながり	・今年度より支えあい推進員が専任されて活動を開始したので、これから見つかる課題をみんなで共有していく ・支援の必要な人の情報がつかみにくい ・生活の中で行動がしにくい方たちを報告する場所 ・個人情報との兼ね合いが難しい
地域活動	・フリーマーケット、ボランティア団体（ホームページ、イラスト、スポーツ支援） ・活動的に動ける人はどこへでも出かけているが、裏腹的に声かけしても話に乗ってこない人が男性に多い ・個人同士の集まり活動はしやすいが、コロナ禍において自治会やまち協主催の行事・活動が難しい（責任問題） ・参加する人が決まっている ・新しく住宅ができており、いかに自治会等の活動に協力してもらえるか、若い世代と高齢者とが一緒にできることをつくる必要がある
健康づくり	・日常的に運動を取り入れる工夫 ・屋外での定期体操
高齢者	・高齢者のフレイル化 ・近所に本当に高齢者が増えた気がする。一人暮らしになった方が増えた。コロナ禍の中、歩くことも遠慮していたのか、ワクチンを打ち少しずつ外で出会う人も見かける。ただ、足腰が弱ったと感じる人が多くなった。男性の一人暮らしの方が外に出られている姿はなかなか見ない ・シニアのフリーパス（バス、タクシー）
子ども・子育て	・集会場開放での昔遊び、草の根での勉強（寺子屋）
支援の必要な人	・引きこもり者を引っぱり出す方法は？
外国人	・外国籍の方が周りに多いが、積極的に声かけができていない ・公園に外国人と日本人が集えるようにする ・外国籍住民の地域活動参加 ・外国籍住民の子どもたちへの教育、接し方
移動・買い物	・元気な人がバスで外出できるように、低床型のバス（コミュニティバス）を増やしてほしい
生活環境	・廃品回収定期→リサイクルできるものの修繕→販売

③湖南市のミライのためにできること

分野	主体	取組
支えあい・つながり	地域	・水戸小学校区は、高齢化率は低いが、今後グッと上昇する 때가来る。高齢者はほとんどが滋賀県外から転入しているため、強い絆に乏しい。今、元気なときから地域とのつながりを深めていくことが必要。身近な近所同士が仲良く気心を許して交際していける関係をつくっていくことが必要 ・地域の絆づくり ・支える側（担い手）の発掘 ・次世代の担い手を育てる ・高齢者宅への訪問で現状の把握
	自分自身	・近所への声かけや支援 ・声かけ、見守りは少しできる ・地域の人、状況の情報収集、発信
	市・社協	・ボランティアやお互い様では突っ込んで入り込んでいけない人への対応

交流	地域	・昔遊びや草刈り、登下校の見守り、働ける場を設ける、会場当番など ・気軽に来れる居場所づくり ・同世代だけで集まるのではなく、地域の清掃活動、祭、運動会、親睦会、自治会等の地域活動を活発にしていくこと。できている地域もある ・子ども広場 ・ふれあいサロン ・シニア層の活動の場を広げる
	自分自身	・同じ人とばかり楽しまずに人の輪を広げていく。スポーツ等の趣味を継続する ・子どもたちとのふれあい ・積極的に参加し、周りの友達も一緒に誘う
連携・協働	地域	・各区・自治会とまち協の協働体制を構築する ・自治会の必然性
	市・社協	・補助金・助成金等の制限の緩和 ・行政に期待する前に地域でできることをやる ・特に高齢者の生活行動困難者を知らせた場合、行政はどういう処置をとったかの報告がない。また、行政の方向性が見えない ・責任を持って取り組んでほしい（ボランティアに頼らない）
地域活動	地域	・ボランティアの育成
	自分自身	・付添送迎支援のスタッフ ・ふれあいサロンのスタッフ ・自治会、市のスポーツ推進委員に積極的に参加。みんなを巻き込む動きを考える（サッカー教室等）
	市・社協	・社協でボランティアを育成しているが、地域で活動していただけるように養成してほしい ・年々、生活費は増え、収入が減る。現状で余裕がなくなり、活動が制限されるので、地域活動に十分な予算をつくってほしい
健康づくり	自分自身	・自分が高齢になってはじめて、健康・体力保持の必要性を痛感する。朝のラジオ体操を定例的にやっていく
支援の必要な人	地域	・付添送迎支援
	自分自身	・独居高齢者への見守り、支援
	市・社協	・一家族の中で多くの課題が重複している家庭に対しては、専門的な支援が必要→市に期待
防災・防犯	地域	・災害（地震）などいざというときの体制や動きがわからない
生活環境	地域	・デマンド交通の次の担い手
	市・社協	・湖南市民のフリーパス（バス、タクシー）

④湖南市のミライの姿

意見
・人に頼らなくてよい社会・地域 ・みんなが笑顔に暮らせる地域になればよい ・交通手段の充実。介護保険でできることが増えてほしい ・行政と自治会およびまち協との関係がスムーズになっていること ・子どもたちが成長して「ふるさと水戸、ふるさと湖南」と自慢できるような地域になる ・シニア層が外に出て活躍 ・子どもの見守り ・ふるさと水戸と自慢できるまちに ・現状維持 ・湖南市のミライの姿を市行政に聞きたい

⑤自分が元気であるためにこころがけること

意見
・フレイル予防のため体操に取り組む ・ウォーキング、体操、健康づくりを心がける（運動！運動！） ・いろんな人と交流し、みんなに元気をもらう ・よく食べ、よく動き、よく話し、よく笑う ・できるだけ外に出て友達等との交わりを持つこと ・運動、運動！ ・運動する ・日常的に夕方5時主人とラジオ体操をしている。 ・人としゃべる、笑顔